

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	福島県立医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	乳腺腫瘍マネージメントコース（正規課程）（テーマ③）						
対象職種・分野	医師・乳腺外科						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんゲノム医療や遺伝子プロファイルによるがん個別化医療に精通した研究者</li> <li>・治療効果予測マーカー探索など革新的技術開発を推進できる大学教育機関の研究者</li> <li>・基礎医学と臨床医学の橋渡し研究の中心的な役割を果たすことができる腫瘍外科医</li> <li>・遺伝性腫瘍や希少がんを含むすべての悪性腫瘍疾患について臓器横断的にプレシジョン・メディシンを実践できる腫瘍外科医</li> <li>・AYA世代や高齢者などライフステージや新ニーズに応じた治療を実践できる腫瘍外科医</li> </ul>						
修了要件・履修方法	単位取得（30単位） 特論4単位、特別研究演習8単位、研究指導4単位、共通必修科目2単位、選択科目12単位かつ、博士論文審査と最終試験の合格。						
履修科目等	<p>〈必修科目〉 腫瘍専門医特論（4単位）*、腫瘍専門医特別研究演習*（8単位）、研究指導（4単位）、共通基盤教育科目から2単位（総合人間学特論1単位を含む）</p> <p>〈選択科目〉 医学特論演習（10単位＝5科目）、大学院セミナー**（2単位＝20回聴講、ポスター発表） *臨床腫瘍学特論I～II（4単位）、臓器別臨床腫瘍学特論（4単位）、腫瘍関連学際領域特論（2単位）次世代腫瘍予防学特論（2単位）を含む。**がんプロセミナー含む</p>						
がんに関する専門資格との連携	乳腺専門医（日本乳癌学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県立医科大学附属病院および関連施設における豊富な癌手術サンプルを用いて、病理形態学の分野、分子病理学の分野、網羅的遺伝子発現解析手法による新規分子標的治療薬・抗体医薬標的分子の薬剤感受性や創薬などの分野で基礎研究を継続できる</li> <li>・海外との共同研究を積極的に展開できる（米国ロズウェルパーク癌研究所など）</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県立医科大学医学部乳腺外科学講座の教授以下、教員6名</li> <li>・乳腺外科、臨床腫瘍センター、腫瘍内科、放射線治療科、小児腫瘍内科、緩和ケアセンター、血液内科、遺伝診療部、ふくしま子ども・女性医療支援センター、臨床研究イノベーションセンター、先端臨床研究センター、医療産業トランスレーショナルリサーチセンターの各領域専門医が共同で指導する。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県立医科大学附属病院や福島県内のがん診療連携拠点病院に勤務し次世代の腫瘍外科を普及、実践する</li> <li>・海外施設への留学を経て、国際的な競争力をもった研究者として活躍する</li> <li>・外科専門医、及び乳腺専門医の取得</li> </ul>						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数設定の考え方・根拠	福島県内の6つのがん拠点病院に乳腺専門医が配置されていない病院は3病院であり、それらの病院に最低1人以上追加配置することを目標とし、今後5年間5人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定。						